活動報告書

報告者氏名：川人弘幸　　所属：神戸市立青陽西養護学校　　記録日：2013 年 2 月 20 日

【対象児（群）の情報】

・学年

小学校 3 年生の男児 1 名(A)

・障害名

自閉性障害

・障害と困難の内容

新版 K 式　1 歳 4 ヶ月

衝動性が高く、 他傷行動が問題となっていた。

【活動目的】

・当初のねらい

自分専用の iPad のスケジュールを手がかりに、一日のスケジュールが分かり、主体的に行動する。

スケジュールにより、始めと終わり、終わってから何があるのかを明確にすることで、心理的な安定を獲得し、他傷行動の軽減、適応行動を拡大する。

家庭の iPad とスケジュールを共有し、保護者との連携により A 児の心理的な安定を獲得する。

・実施期間

9 月 1 日～現在

・実施者

川人弘幸

・実施者と対象児の関係

担任

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

「魔法のじゅうたん」プロジェクト参加後、iPad の活を通して A 児の困難さを支援しようと試行錯誤を繰り返していた。A 児が実施者に他傷行動を行うことはなくなっていたが、「他の誰に対しても、また、どのような場面でも」ということが大きな課題であった。

・活動の具体的内容

アプリは keynote を利用した。A 児のワーキングメモリを iPad で拡張することをイメージした。9 月より、iPad の活用を、実施者が keynote でその日に合わせて作成したスケジュールボードに絞り、学校での活用時は、ios6 から実装されたアクセスガイドの機能を使って画面がスケジュールボードから移動しないように固定した。A 児のそばに置き、いつも A 児が自ら iPad を操作してスケジュールを確認できる環境設定を行った。A 児の実態に合わせて、スケジュールのメイン画面のそれぞれのアイコンに、ハイパーリンクを貼り、スケジュールの階層化を行った。それによって、一日の流れの中で A 児にとっての好子が分かりやすくなるように配慮した。また、作成したスケジュールは毎日、メール添付で家庭に送付し、家庭の iPad でも A 児がスケジュールを活用できるようにした。

・対象児（群）の事後の変化

他傷行動は消失し、適応行動が拡大した。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

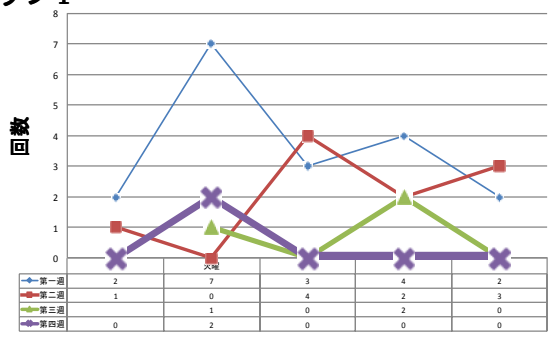
9 月より iPad のスケジュールが、いつも A 児の手に届くところにあるようにしたことで、だんだん自発的に自らスケジュールを確認するようになった。

9 月末には、A 児が苦手な宿泊体験学習があったが、iPad のスケジュールを自分で何度も操作して、穏やかに過ごし、笑顔で帰宅することができた。

・エビデンス（具体的数値など）

グラフ 1 に、iPad のスケジュールで環境設定を開始した 9 月からの、対象児の他傷行動の生起頻度を示す。実施者がカウントしていったが、週を追うごとに顕著に回数が減少していったことが分かる。しかも、第 4 週の木・金曜日は常時のルーティーンとは大きく異る宿泊体験学習であったが、他傷行動は 0 回であったことが分かる。(※第三週月曜日は、秋分の日で祝日)

グラフ 1　9月　他傷行動の生起頻度



・その他エピソード

A 児は、他傷行動が消失しただけでなく、ほぼなかった発語の面でも成長が著しく、観察記録では 1/29 には「ブランコおして」の二語文を初めて話し、1/30 には朝の会の歌を初めて歌った。以上のことは、A 児のワーキングメモリの弱さを iPad が外付けのワーキングメモリとして補ったことに起因すると考える。

そのことを引き続き観察・検証していきたい。

図 1:iPad のスケジュール画面

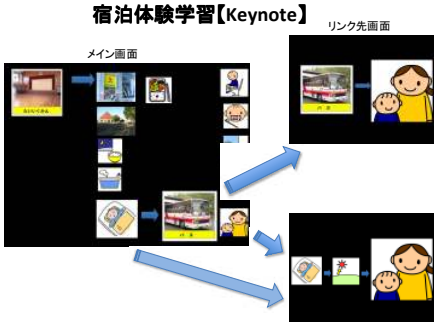
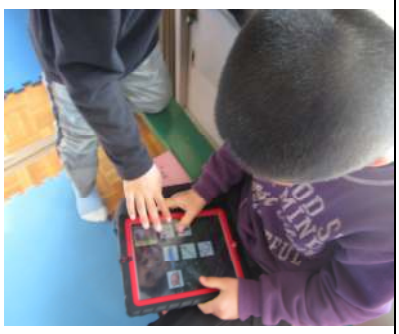



図 2:学校での様子